2025（令和7）年度 尚絅学院大学「現職教員のための公開講座」一覧

講座名	講座内容	講師名	開催日時	主な受講対象	定員
（R07-01） 令和６年度改訂小学校国語科教科書における説明文教材の性質の変化	令和６年度の教科書改訂では、多くの新規文章が収載されました。また、仙台市が光村図書へと採択を変更したことで、仙台市では今年で小学校全学年の国語科教科書が光村図書に統一されました。 本講座では、宮城県内で採択されている東京書籍及び光村図書の２社について、改訂前後の小学校国語科教科書の説明文教材を比較します。比較にあたっては、国語学的な統計的観点による分析結果を尺度とし、文章の構造と表現の両面において新教科書の説明文教材の特色を見ていきます。	教育部門　講師 大谷 航	８月４日（月） １３：００～１５：００ 受付　１２：３０～１３：００ 受講料無料 パワーポイント使用	小学校教員 （教職課程履修者）	３０名程度
（R07-02） 今，改めて「教職の魅力」を考える ～「新たな教師の学び」の姿と資質・能力～	被災地で子供たちと生きる教師たちがいます。複雑化・多様化する教育現場で様々な課題に日々対応し，実践を模索する教師たちがいます。もはや，「教師の仕事は授業」という考え方だけでは，「教師」という魅力ある仕事を務めることはできなくなってきていると考えます。いわゆる「教師不足」という課題や「若手教師の離職」という課題も，「教職の魅力とは何か？」ということを再確認することで解決の道筋が見えてくるのかもしれません。 本講座では，近年の教育界の動向もふまえながら，今改めて「教職の魅力」ということを見つめ直し，教師の働きがい，「新たな教師の学び」の姿や求められる資質・能力などについて考えていきます。	（前）教職課程部門特任教授 佐藤 佳彦	８月7日（木） １３：００～１６：００ 受付　１２：３０～１３：００ 受講料無料 パワーポイント使用	小学校教員 中学校教員 高等学校教員 特別支援学校教員 （教職課程履修者）	30 名程度
（R07-03） 「社会に開かれた教育課程」と学校・家庭・地域の連携と協働	「社会に開かれた教育課程」には，地域ぐるみの様々な取り組みが期待されています。実際に「社会に開かれた教育課程」をどのように構想していくのか，「子供は未来の創り手」，「地域とともにある学校」をキーワードに事例を基に具体的な理解を深めていきます。 また，コミュニティスクール（学校運営協議会を設置した学校）と地域学校協働活動が一体となって「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すことの意義を確認し，地域連携担当教員を中心として家庭と共に地域社会全体で子供を育てていくために，学校教員が行う視点と教育実践について，グループでの意見交換などを取り入れながら理解を深めていきます。	教職課程部門　特任講師 安倍 良博	８月８日（金） １０：００～１２：００ 受付　９：３０～１０：００ 受講料無料 パワーポイント使用予定	小学校教員 中学校教員 高等学校教員 特別支援学校教員 （教職課程履修者）	３０名程度

（R07-04） 対話的な学びを支える「話すこと・聞くこと」	授業における対話的な学びをどう生み出せているのか，国語科の日々の授業実践を振り返りながら見直してみませんか。授業づくりの悩みを共有しながら，対話的な学びの実現に向けた授業改善力につなげたいと考えています。その切り口として，学習指導要領「話すこと・聞くこと」に関する指導事項から，身につけさせたい力について確認します。「国語は楽しい」という声が生まれる教室を目指したいです。 【備考】当日は「学習指導要領解説 国語編」をお持ちください（所属校該当分で可）。	教職課程部門　特任講師 太田 文子	８月８日（金） １３：００～１５：００ 受付　１２：３０～１３：００ 受講料無料	小学校教員 中学校教員 高等学校教員 （教職課程履修者）	２０名程度
（R07-05） 「学び続ける教師」が地域とともに創るこれからの学校・学級・授業	教員には「学び続ける教師」として，チーム学校の一員として，これからの時代に求められる資質・能力を児童生徒に確かに育む学校，そして児童生徒が日々学びがいを感じる学校を校長のリーダーシップの下に保護者や地域住民とともに創っていくことが求められます。 本講座では，一人一人の持ち味が発揮される学級経営，配慮や支援を必要とする児童生徒とのかかわりや保護者との連携，学びの質を高める「個別最適な学習」と「協働的な学習」の展開，問題解決的な学習による授業の活性化，家庭や地域と連携した教育活動などについて，事例を取り上げながら考えていきます。	（前）教職課程部門特任教授 佐藤 佳彦	８月１８日（月） １３：００～１６：００ 受付　１２：３０～１３：００ 受講料無料 パワーポイント使用	小学校教員 中学校教員 高等学校教員 特別支援学校教員 （教職課程履修者）	30 名程度